



## 会設立からの歩み

今号には4月から7月までの活動を記録しました。  
見出しの番号は創刊号からの通し番号です。

### 42 平成17年度総会が開かれる

4月8日、能代市中央公民館で総会が開かれ、平成16年度の報告と決算書を承認し、今年度の事業計画と予算案を審議した。



会長あいさつでは浅田副会長があいさつし、梅田市美会長のメッセージを紹介しながら、発

足以来五年目を迎えた本会が、国・県から少しは評価してもらえるようになったと紹介した。

今年度の事業計画を審議する中で、「新しい散策路ができて歩く人が増えるとタバコによる火事が心配だ」「松原内を禁煙にできないか」「カラスの数が多くなってきた。何とかできないか」「ニセアカシアの芽欠きはどんなことをするのか」「昨年の市民ボランティアでは来賓あいさつが長く、作業説明が徹底できなかった」などの質問や意見があり、それぞれ関係箇所に要望・申し入れ等を行うこととした。



梅田会長・浅田副会長の辞意を受けて行われた役員改選では、鷲尾禮次郎氏を新会長に選出し、副会長は福司和夫・浅野ミヤ・安井昭彦の3氏、監査は引き続き佐々木利雄・塚本誠子の2氏、事務局長佐藤幸雄、事務局員秋林弘道・小林勝平の体制となった。



### 43 風の松原バードウォッチング

4月29日朝6時から7時半過ぎまで、一般参加者5名を含む17名でバードウォッチングを行った。始めに講師の渡辺進さんから探鳥の基礎を学んでから出発したのだが、鳴き声で野鳥を探すので、初めて

参加した筆者にとってはバードリスニングという感じだった。

姿を確認できた鳥は少なかったが、終了後講師の渡辺さんが「今日は普段の2倍以上の速さで歩いたが、確認できた鳥名はアカゲラ、ヒヨドリ、クロツグミ、アオジ、ウグイスなど17種だった。普段のバードウォッチングは2人位でゆっくり歩くのが良い」と話されていた。

### 44 風の松原を守る市民ボランティア大会

5月8日の日曜日、好天の中で、昨年から「風の松原ボランティア協議会」が主催することとなった「風の松原を守る市民ボランティア大会」が開かれた。

このボランティアには風の松原に守られる人々の会会員はそれぞれ個人で参加申込みをすること



になって風の松原ボランティア協議会清水会長のあいさつしているが、会員の中から作業リーダーが5名も出ており、多数の会員が参加した。参加者は大会本部発表で900人となっている。

### 45 風の松原案内ガイドの依頼相次ぐ

本会对し、小中学校の総合的な学習への講師依頼や、ウォーキングクラブ、旅行団体等から案内ガイドの依頼が相次いでいる。これらの要請には正副会長や事務局が中心になって対応しているが、何度もコース内の下見をしてモデルコースを作るなど「案内ガイドの手引き」(仮称)作成にも取り組んでいる。

今年度になってからの主なものを挙げると、

- 5月12日(木) 能代二中 1年生自然観察会
- 5月26日(木) 湊一小 5年生総合的な学習
- 6月7日(火) 日本丸乗客への風の松原ガイド
- 6月24日(金) 秋田白神観光プレスツアーへのガイド
- 6月28日(火) NHK文化センター八戸支社ウォーキングクラブ



## 46 ニセアカシアの芽欠き作業

6月22日(水) 今年初めての試みとしてニセアカシアの芽欠き作業が行われた。この事業は今年度の総会で初めて提案されたものである。

実施理由は「昨年度行われた健康づくりのみち(セラピートレイル)工事によりニセアカシアの木もたくさん切り倒された。他の木と異なり、ニセアカシアの性質は『ニセアカシアを切ると十倍返し目の目に遭う』と言われるほど繁殖力の強い木なので、そのままにしておくと松林内がニセアカシアで一杯になり、成長も早いので太陽光を一身に集め、クロマツの生育が脅かされてしまうから」である。またニセアカシアは土地を肥やすので肥料木と呼ばれている。この点でも痩せ地を好むクロマツの大敵なのです。



当日は会員19名、能代火力のまつぼっくり風の会6名、一般5名と30名が参加し、福司副会長が陸上競技場脇の切り株の前で、ニセアカシアの特性と芽欠きの方法を説明してから、鷺尾班、秋林班、福司班の3グループに分かれて健康づくりのみち(セラピートレイル)の両側のニセアカシア芽欠きに取り組んだ。

実際に軍手で掴むとすぐに新芽を引きはがすことができた。この切り株に30本ほどの新芽が40センチにも伸びていたがトゲも柔らかく痛くはなかった。トゲはお盆を過ぎる頃から固くなるのだという。



芽欠き前(左) と 芽欠き後(右)

ニセアカシアは芽欠きをしてもしつこく新芽を出してくるので、これからも年2回の芽欠きを根気強く数年間は続けていく方針である。

## 47 チェンソーの使用法を学ぶ

風の松原に守られる人々の会では昨年度、秋田県からチェンソーと刈払機をそれぞれ3台ずついただいている。

7月2日(土)に山本地域振興局主催の「森林ボランティアステップアップ講座」が「チェンソー等のしくみと使

用方法」というテーマで実施されたので、会員8名が参加、チェンソーの使用法を研修した。

午前中は能代山本広域交流センターで伐木作業に関する知識の講義を受け、午後は男鹿市(旧若美町)内にある県有林に出向いて刈払機やチェンソーを扱う場合の注意点、メンテナンスの仕方、目



立ての仕方を教わり、実際に赤くなった松の木を伐倒してみせた。受講生も玉切りを体験して、チェンソーの振動を味わった。

## 48 樹種名札の取り付け

7月20日(水) 朝9時30分から新しく作られた「健康づくりのみち(セラピートレイル)」両側に樹木名札を取り付ける作業を行った。

曇天で作業日和に恵まれ、13名が参加して作業を実施。

鷺尾会長のあいさつの後、福司副会長から作業の説明があり、名札取り付けの際にも福司さんから樹木に関する説明を受けながらの作業で楽しい時間を過ごすことが出来た。名札は20種類40枚準備したが、実際に取り付けたのは16種類27枚だった。

なお、6月22日に芽欠き作業を行ったニセアカシアが新たにまた芽を吹き出して大きくなっていったのに、皆一様にビックリし、名札掛け作業とニセアカシアの芽欠き作業、樹木観察を並行して行った一日だった。

7月25日の役員会で「ニセアカシアの芽欠き」追加作業を決定、8月6日に実施した内容は次号で紹介する予定である。



7月25日の役員会で「ニセアカシアの芽欠き」追加作業を決定、8月6日に実施した内容は次号で紹介する予定である。